



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑨ 性病

京都府南丹保健所長 時田 和彦

性行為により伝播する感染症を性病または性感染症と呼びます。代表的な疾患には、HIV 感染症/エイズ、梅毒、性器クラミジア感染症、淋菌感染症などがあります。HIV については前回書きましたので、今回は梅毒とクラミジアについて書きます。

梅毒は、この 10 年ほどで患者が急増しています。特に 20 代の女性と、20 代から 40 代の男性で多くの患者が報告されています。症状としては、性交後 1 ヶ月程度で、性交渉部位(性器、肛門、口)に皮疹などが現れ、やがて自然に消失します。3 ヶ月ほど経つと、今度は手のひらや足の裏に皮疹が出ますが、やがて消失します。そして数年から数十年後に、内臓や脳などに重大な病変が出現します。また妊娠中の感染により、胎児に重大な障害が出る可能性があります。

梅毒の対策としては、性交時にコンドームを使用する、感染が疑わしい場合は早めに検査する、治療は患者とパートナーの両方同時に実施する、などです。

性器クラミジア感染症は、性病の中で最も頻度が高い疾患です。妊婦健診で、正常妊婦の 3~5%が感染しているとのデータがあります。症状は男女とも軽く、性器の違和感程度のことが多いです。しかし女性では、食後に上腹部が周期的に痛むことがあり、しばしば内科を受診します。また不妊症の原因となります。

クラミジアの対策も梅毒とほぼ同様で、コンドームの使用などの予防と、早期発見が大切です。両疾患ともに、保健所では匿名・無料で検査が受けられます。検査希望時には、ホームページを見て保健所に連絡してください。